

コース 24 たいせつざん 大雪山縦走

リーダー CL N/S SL E/S

実施日 平成24年7月28日(土)～8月1日(水) 天候：29、31日/曇り,30日/晴

参加者 9(男性 3 女性 6)

グレード C上～D

コースポイント

ポイント	到着時間	出発時間	備考
小樽港←新潟港	29日 4:30	28日 10:30	船内では天気、花情報などのミーティングと昼食会
29日 旭岳 RW 駅	7:50	8:00	旭岳は雲海に覆われていた。
旭岳山頂	10:40	11:08	山頂は薄霧の中。早昼食。雪渓を渡ると一面花畑
北海岳山頂	13:20	13:27	稜線は花畑。雲間から御鉢平、雲ノ平、黒岳の眺望
黒岳山頂	15:40	15:48	歩いてきたルートを俯瞰する。下山中通り雨。
層雲峡(宿泊)	18:00	30日 4:25	植生が違う蝦夷千島金梅などの花々に出会えた。
30日 銀泉台	4:55	5:10	コマクサの群落。数多くの高山植物の出迎えた。
赤岳山頂	8:30	8:35	稜線に出ると強風。名残のウルップソウに出会える
緑岳山頂	10:15	10:20	山頂からの高根ヶ原、トムラウシ山の全景に感動
大雪山温泉口	12:55	14:00	名瀑百選流星・銀河の滝を見学。旭岳温泉 18時到着
31日 旭岳 RW 駅	8:10	31日 8:00	午後から雨、ヒグマ、渡渉を考え裾合平散策とした。
裾合平	10:00	10:05	姿見平の笹群と違う高山植物を觀賞
旭岳 RW 駅	11:30	11:45	名物ソフトで癒やし、船内で食べる物の買出し
新潟港←苫小牧東港	1日 15:30	31日 19:30	お喋りに花を添え、飲み且つ食した。

山行等概要(幹事のコメント)

- 事前に、登山天気のチェック。層雲峡と旭岳ビジターセンターによる登山情報、花の開花状況の入手。それにヒグマ情報と対処法の入手に努めた。無論、宿泊先と交通手段と経費の確認にも労力を割いた。
- 参加者の実力を鑑み、天気さえ良ければ登攀できると確信した。
- 29日のルートは当初2コースの計画をした。当日は曇りで予定より足並みが揃っているので、北海岳コースを選択し、高山植物を觀賞しながらの山行であった。
- 30日は今回のハイライトである銀泉台コースは晴天に恵まれ、いろいろの花々が出迎えてくれた。
- 5日間の長い山旅、「神々の遊ぶ庭」に行けたことに感謝いたします。



薄霧の旭岳山頂

「大雪山縦走に参加して」

(1475) A/W

大雪山は春から秋の花が一斉に咲くという、憧れの山でしたが、眺める山でした。ロープウェイで行って姿見の池の周辺を歩いたりしても、周囲の山並みに行けるとは思ってもなく、大雪山という独立峰はなくて、広大な国立公園の総称だということも知りました。体力、気力も尽きるかと心配でしたが、思ったときにチャンスと応募しました。

第1日目 16時間の船旅です。自由席1室を確保するため、1室が空いている所を探すというのです。ところがドライバーさん達は先なので、なかなか見つかりません。しかし、足の長さで競争に勝った、リーダーが1室を確保して、まず、出発のお祝いをしました。

第2日目 小樽からバスを借り切ったの山行です。運転手さんに3日間世話になりました。旭岳ロープウェイで姿見駅まで行き、そこから誘われるように遊歩道をすすみ、いよいよ、大雪山トップの旭岳へと向かいます。火山礫でゴロゴロしてはいるが、なだらかな山道で、両脇にはヒメイワタデ。(タデは華やかではないせいか、最後まで判らない花でした。) そのうちに、豪華で柔らかな毛をもつイワブクロの群生が現れました。この花はどこでも見られました。「この1m四方に何種類ぐらいの花がある？」との問いかけ。私は草藪としか見えないで2,3種類しか分かりませんでした。なんと名だたる30種類以上あるとか。知識の豊富な方々と一緒なので、ガイドさん達と歩いているようなものです。金庫岩(まさに立方体の岩です)すぎたあたりから、急登になり風が吹き始めました。下山の人に聞くと、「稜線は強い風」とのこと。神々が遊ぶ山なので、「六根清浄、登らせたまえ」とうたいながら、稜線に出ると、猛烈な風が吹きすさんでいきました。霧がすごいスピードで流れ、見えていた山容がまたたくまに雲の中に、また、霧が晴れ、山容が現れたりめまぐるしく変わります。しかし、昼食はなんと、風のないところでした。北海岳の頂上を過ぎたところから、コマクサの群生が風に揺れていました。けなげに、ほかの草を寄せ付けず、毅然と風に耐えているようです。黒岳石室に着くと、あと0.9kとの看板で、ほっとしました。天候が悪くなりそう。黒い雲が重く下がってきています。黒岳を登り切り、7合目の黒岳リフトまで、下山します。ヨツバヒヨドリ、ナガバキタアザミなど目は喜んでいるのですが、雨粒が心配。下りが長く感じました。とうとう、リフト直前に大粒の雨が降り、屋根のないリフトでは、びしょ濡れになると思い雨ズボンもはいて、でも、降らなかったのは幸いです。通り雨のようでした。



次いで、層雲峡ロープウェイに乗り、宿泊のホテルに行きました。

3日目 天気予報と違って、朝から快晴。気もそぞろにバスに乗り込み、広大な森林と巨大な崖の中、修学旅行で来た層雲峡を思い出しながら、大雪山観光道路を走りました。銀泉台から登山道へと向かいました。登り始めると早々とお花畑が私達を迎えてくれました。まさに、花園で、エゾコザクラ、エゾツガザクラ、アオノツガザクラなどが、パッチワークのように、巨大な群生を作り、感嘆の声をあげました。次の花園でもまた次の花園でも、もうこれ以上はないと思っても、感嘆の声をあげました。あくまでも透き通るような青い空、真白い雲、巨大な雪渓、鮮やかなピンク、赤、黄と花の群生、また、眼下を見渡すと、広い大地で、鮮やかな緑の樹木の絨毯、大きな恰好の良い岩が点在し、キラキラとした雪解け水が下る様はまさに日本庭園をここからイメージしたのではないかと思うほど、昔の先人がこんな深い山に入ったと思えないが。これが北海道ならでのスケールなのだと思います。



赤岳までの山道の石は赤紫で、アメジストの原石かと思うほど、目で拾いながら、稜線に着くと、360度見渡せる頂上でした。風が強くなり、ここはいつものことだ。メガネは勿論のこと、コンタクトレンズまで飛ばされると聞いて、メガネがなければ一歩も歩けなくなる私は深々と帽子かぶり必死でした。広い稜線なので、雨や霧にまかれたら、戻りも進むことも困難になるとのこと。遠近ともに深い山の中。前方にトムラウシ山が見え、5峰のギザギザの頂上を持ち、中でも特徴的です。足元のホソバウルップソウは穂がでており、たった1輪ようやく見つけました。雪解けと同時に開花し、その頃、ここまでの登山道は深い雪の中とのこと。私にとって北海道のホソバウルップソウは幻の花です。濃いピンクの大きな花弁を持つのは、エゾツツジです。小泉岳を超え、緑岳から風もおさまってきました。風はないが、日がカンカンと照り暑くなりました。私はこの下山が今回の山行で一番難儀をしました。足元は浮石の多い岩の重なりで、足をどこに置いていいかわからない。ジグザグに巻いて降りるのですが、急です。これがどこまで続くのか。緑岳などと言っても、緑はない。暑くとも雨でないのが幸いでした。



ようやくお花畑に到着しましたが、花の群生はみごとです。雄大な景色と花に囲まれてゆったりと食事を摂りたいところでしたが、「熊が食料の匂いで誘われる」との注意の看板で、熊が飛んで来ては大変なので、行動食でエネルギーを補い、大雪高原山荘まで、小休止を取りながら下山しました。青い空の白樺の木陰の下でお花畑を思い出しながら、昼食を摂りました。

今夜の宿泊の旭岳温泉は大雪国立公園をぐるっと回っていくところにあります。重なりあった山や、広大な田園を見ながら、また、ぐっすり眠りながら、ログハウスの雰囲気のあるロッジにつきました。中はトイレなど近代的でした。マスター、奥さんともに親切です。源泉かけ流しの温泉は疲れを取ってくれました。食事もこだわりの食材で特にシシャモは川に上がってすぐとるものだそうで貴重なもの、食後のメロンはとろけるようで、とてもおいしい。



4日目 再度、旭川ロープウェイを使って裾合平まで、時間との兼ね合いを見ながらの山行でした。先日と違い、そう朝早くなく、朝食をロッジでとってからというのも安心しました。もうすでに十分に大雪



山を満足したものだから。今回は姿見の池から、火山の湯気、硫黄の匂い、火山であることを堪能しながら、歩きました。雪渓を眺め、その雪解けの浅い谷川を超えていくのはまた違った趣向でおもしろい。ここでは、チングルマが群生しており、ある場所では穂を一斉に風車のように風に揺らし、またある群生ではバラの花のように、白い花びらと黄色の蕊を誇らしげにして上を向いていました。何度見ても新鮮な感動をよび、本当に自然の美しさに驚嘆しました。

12時ごろ下山し、バスで一路、帰りの船乗り場の、苫小牧に向かいました。苫小牧までの途中、ハイウェイオアシスや魚市場での買い物を楽しみ、船の住人になりました。船の中の風呂で疲れを取り、打ち上げのミーティングをしました。後は翌日の新潟港に着くまで、夢の世界から現実の世へ、船が運んでゆきます。長い人生の中でも、思いで深いひと時となりました。

リーダーをはじめ皆様に感謝します。

長い山行でしたので、文も長くなりました。まだ書き足りないところがいっぱいありますし、タイムコースがないことをお許しください。思いつくままこの貴重な体験を書かせていただきました。ありがとうございました。

29日 姿見駅～旭岳山頂



噴煙をバックに、姿見の池にて



山頂に向けイザア出発

29日 旭岳山頂～北海平山頂



ガスの中、雪渓を下る



エゾノツガザクラの群落



イワヒゲの群落



北海岳山頂 2,149m



晴れた瞬間、北海平付近からの御鉢平と黒岳を望む

29日 北海平山頂～黒岳石室～黒岳～7合目駅



高山植物が美しいところ



チングルマとエゾコザクラ



花畑の中を黒岳に向け下る



チングルマ綿毛と雲ノ平



北海沢を渡渉



イワブクロと雲ノ平



黒岳山頂 1,984m 歩いてきた山々を背にして

30日 銀泉台～赤岳



雪渓を登る



コマクサ平のコマクサ



花に囲まれた道を登る



赤岳山頂 2,078m

30日 赤岳～小泉岳～緑岳～花畑～大雪高原温泉登山口



名残のウルップソウ



小泉岳 2,158m 強風の中のポーズ



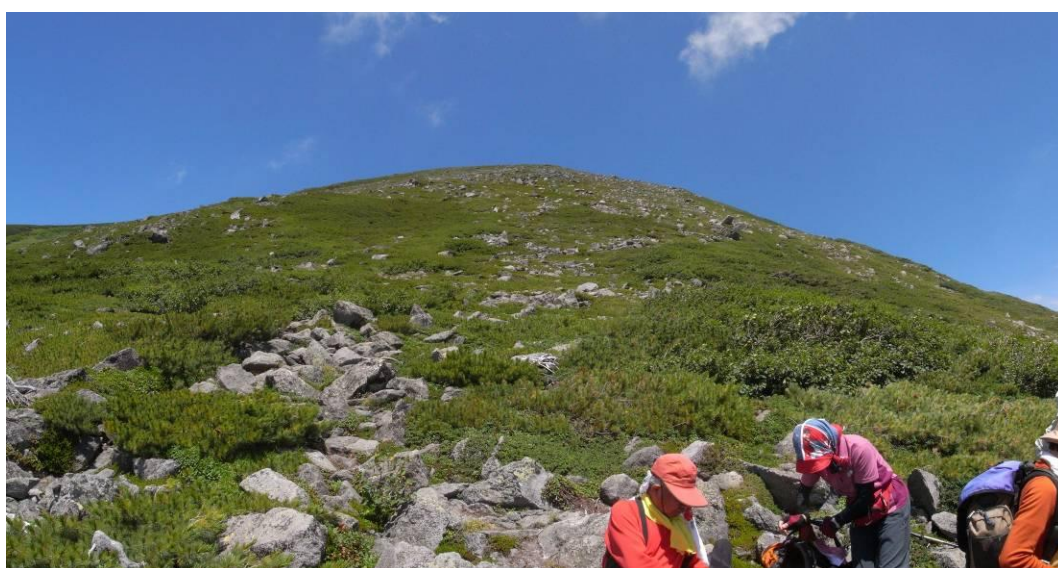
緑岳から望む高根ヶ原とトムラウシ山



快晴の緑岳山頂 2,019m



帽子が飛ばされない用心と長急こう配の岩場を慎重に下る



大きな緑岳を背にして、岩場を下り休憩タイム

31日 姿見駅～姿見平～裾合平



旭岳温泉ロッジ・ヌタブタウシベ前で



遠くに旭岳の噴煙をバックに、姿見平にて



裾合平の高山植物



裾合平のチングルマ

出会えた花々(抜粋)



